

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-020307

(43)Date of publication of application : 23.01.1996

(51)Int.Cl.

B60R 22/10

(21)Application number : 06-158747

(71)Applicant : ARACO CORP

(22)Date of filing : 11.07.1994

(72)Inventor : SAKAI MASATOSHI

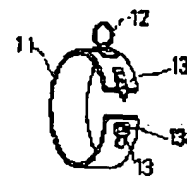
## (54) PET RESTRAINING SEAT BELT

### (57)Abstract:

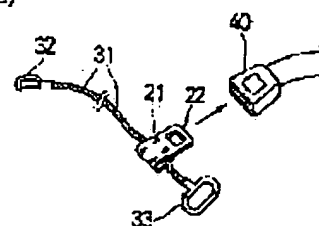
**PURPOSE:** To prevent a pet from moving around beyond the movable range by connecting a pet restraining means for restraining the pet and a seat anchor fitting means formed into a seat buckle shape fittable to a seat anchor via a connecting means limiting the movable range of the pet.

**CONSTITUTION:** This pet restraining seat belt is provided with a restraining band 11 having the length sufficient to be bound on the body of a pet for restraining it, and the restraining band 11 is provided with a fitting metal 12 for fitting a connecting rope 31 on the upper face and fitting belts 13 at both end sections. The pet restraining seat belt is also provided with a tongue plate 21 which is a member to be fitted to a seat anchor 40 provided on a seat, and the tongue plate 21 is provided with a tongue 22 couplable with the spring-excited lock plate of the seat anchor 40. The connecting rope 31 provided with a karabiner 32 at one end and a handle 33 at the other end is integrally connected to the tongue plate 21, and the karabiner 32 is hooked on the fitting metal 12 of the restraining band 11 to restrain the pet.

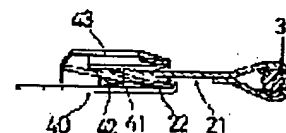
(A)



(B)



(C)



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's

decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-20307

(43)公開日 平成8年(1996)1月23日

(51)Int.Cl.<sup>8</sup>

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 0 R 22/10

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平6-158747

(22)出願日 平成6年(1994)7月11日

(71)出願人 000101639

アラコ株式会社

愛知県豊田市吉原町上藤池25番地

(72)発明者 坂井 正俊

愛知県豊田市吉原町上藤池25番地 アラコ  
株式会社内

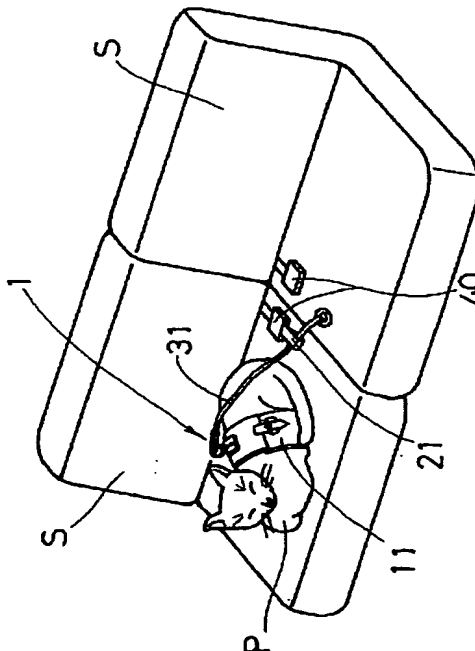
(74)代理人 弁理士 岡田 英彦 (外2名)

(54)【発明の名称】 ベット拘束用シートベルト

(57)【要約】

【目的】 ベットをシートに拘束することができ、運転の妨げとなることやベットの車外への飛びだしを防止し、また急ブレーキ時や事故の場合にベットを保護することが可能なベット用シートベルトを提供する。

【構成】 ベットを拘束するためのベット拘束手段と、車両シートに付設されたシートアンカに装着可能なシートバックル形状に形成されたシートアンカ装着手段とからなるベット拘束用シートベルトであって、ベット拘束手段とシートアンカ装着手段とはベットの可動範囲を制限する連結手段を介して連結される。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ペットを拘束するためのペット拘束手段と、車両シートに付設されたシートアンカに装着可能なシートバックル形状に形成されたシートアンカ装着手段とからなるペット拘束用シートベルトであって、前記ペット拘束手段と前記シートアンカ装着手段とはペットの可動範囲を制限する連結手段を介して連結されることを特徴とするペット拘束用シートベルト。

【請求項2】 ペット拘束手段がペット用ケースからなることを特徴とする請求項1に記載のペット拘束用シートベルト。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、例えば犬や猫等のペットを車両へ乗せる場合のペット拘束用シートベルトに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来、犬や猫等のペットを車両へ乗せる場合には、搭乗者が膝の上に乗せたり、あるいは空いているシートにペットを乗せるなどしていた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、かかる方法によればペットが車内で動き回り運転の妨げとなる場合があった。また乗降時に車両のドアを開けたとき、ペットが車外へ飛びだしてしまう場合があった。さらに、急ブレーキをかけた場合や事故の場合は、その衝撃でペットが投げ出され危険であった。そこで、本発明の目的はペットをシートに拘束することができ、運転の妨げとならず、またペットの車外への飛びだしを防止し、急ブレーキ時や事故の場合にペットを保護することが可能なペット用シートベルトを提供することにある。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】上記した課題を解決するため、本発明は以下の手段をとっている。すなわち、請求項1の発明は、ペットを拘束することができるペット拘束手段と、車両シートに付設されたシートアンカに装着可能なシートバックル形状に形成されたシートアンカ装着手段とからなるペット拘束用シートベルト構造であって、前記ペット拘束手段と前記シートアンカ装着手段とはペットの可動範囲を制限する連結手段を介して連結されることを要旨とする。また、請求項2の発明は、請求項1に記載のペット拘束用シートベルト構造であって、拘束部材がペット用ケースからなることを要旨とする。

## 【0005】

【作用】請求項1の発明によれば、ペットの可動範囲はペット拘束手段とシートアンカ装着手段とを連結する連結手段の長さの範囲内に制限される。また、請求項2の発明によれば、ペットはペット用ケースに入った状態でシートに拘束される。

## 【0006】

## 【実施例】

(実施例1)以下、本発明の実施例1を、図1から図3を参照して説明する。ペット拘束用シートベルト1は、拘束バンド11、タングプレート21および連結ロープ31とを主体に構成される。ここで、拘束バンド11は本発明のペット拘束手段に、タングプレート21は本発明のシートアンカ装着手段に、連結ロープ31は本発明の連結手段にそれぞれ対応するものである。

【0007】拘束バンド11はペットPの体に装着してペットPを拘束する部材であり、ペットPの胴体に巻き掛けて拘束できる適宜な長さを有する帯状体である。また拘束時にペットを締め付け過ぎないように適宜な幅を有する。拘束バンド11は、ペットに不快感を与えないように例えば皮革・布等の材質を用いるのが好ましい。拘束バンド11の上面には連結ロープ31を取付けるための取付金具12が設けられている。また拘束バンド11の両端部には装着ベルト13が設けられている。装着ベルト13は、図2(A)に示すように拘束バンド11の両端部に付設されている。そして一方の取付ベルト13には固定用のバックル13aが設けられ、また他方の取付ベルト13はバックル締付が可能に自由端になっている。しかして拘束バンド11をペットPの胴体に巻き掛けた後、装着ベルト13を用いて拘束バンド11を締付けてペットPに装着する。なおペット拘束手段10は上記の構成のものに限定されるものではなく、例えば図3(A)に示すように、首輪状に形成してもよい。

【0008】タングプレート21はシートSに付設されたシートアンカ40に装着される部材であり、シートバックルと同一形状に形成されている。すなわち、図2(C)に示すようにシートアンカ40のロックプレート41に係合可能なタング22が形成され、タング22がリターンズプリング42によって付勢されたロックプレート41に係合することによりタングプレート21がシートアンカ40に装着される。また取外し時には解除ボタン43を用いてロックプレート41による係合を解除する。また、タングプレート21の一端には曲げ加工が施され、後述する連結ロープ31を挟着し、さらにかしめによって連結ロープ31をタングプレート21に固定する。なお、連結ロープ31の固定方法は、挟着およびかしめに限定されるものではなく、例えば図3(B)に示すようにタングプレート21に複数の孔部23を穿設しておき、これに連結ロープ31を褶曲的に通して固定してもよい。この場合は連結ロープ31を移送して固定位置を適宜に変更できるので、シートやペットの大きさに応じて、連結ロープ31の長さを適宜に変更できることになる。

【0009】連結ロープ31は、拘束バンド11とタングプレート21とを連結してペットの可動範囲を制限するための部材である。連結ロープ31は、図2(B)に

示すようにその一端にカラビナ32が付設され、拘束バンド11に設けられた取付金具12にワンタッチで着脱が可能である。また他端には把手33が付設され、ペット移送時の取扱いの便宜が図られる。なお連結の手段は、上記連結ロープ31以外に、例えば図3(C)に示すように通常のシートベルトに用いられるウェビング34を用いてもよい。この場合は、連結ロープ31を用いた場合に比べて急ブレーキ時や事故の場合に耐衝撃性に優れた効果が得られる。

【0010】しかして、実施例1のペット拘束用シートベルト1が構成される。すなわち拘束バンド11に設けられた取付金具12に、カラビナ32を介して連結ロープ31を取付ける。そしてタングプレート21をシートアンカ40に装着する。この時、タングプレート21にはタング22が形成されているので、シートアンカ40内部に設けられたロックプレート41にタング22が係合して装着性は良好である。なお、ペット拘束用シートベルト1は車両のいずれの座席でも使用できるが、運転時の安全性を考慮すれば後部座席のシートアンカに装着する方が好ましい。その結果、図1に示すようにペットPはシートSに拘束される。すなわちペットPの可動範囲はシートアンカ40を中心にして連結ロープ30の長さの回転半径内に制限されることになる。これによって、運転時にペットPが動き回り運転の妨げになることはなく、またペットPの車外への飛びだしを防止し、急ブレーキ時や事故の場合にペットPを保護することが可能となる。

【0011】(実施例2)次に実施例2について説明する。なお、実施例2は請求項2の発明に対応するものである。図4に示すように実施例2のペット拘束用シートベルト1Aは、ペット用ケース15とタングプレート21とウェビング34とから構成される。ペット用ケース15はペットPを収容できる適宜な大きさを有し、例えばプラスチックや木材等を用いて構成される。またペットPを収納するための蓋付き収納口15aと、収納されたペットPが呼吸をするための通気孔15bとが設けられている。タングプレート21は、実施例1の場合と同様の構成であるので省略する。また連結の手段としてロープではなくウェビング34を用いたのは、ペット用ケース15の重量を考慮して引張荷重に強い部材を選択したためである。従って、急ブレーキ時や事故の場合にもペット用ケース15が投げ出されることが防止される。しかして実施例2のペット拘束用シートベルトが構成され、ペットPの可動範囲はペット用ケース15内に制限

される。かかるペット拘束用シートベルト1Aはペット用ケース15を用いてペットPを拘束する構成であるため、ペットが小動物の場合や暴れやすい場合、あるいは目的地に到着したあとペットPをペット用ケース15ごと運ぶ場合には最適である。

【0012】

【発明の効果】請求項1の発明によれば、ペットの可動範囲を連結手段の長さの範囲内に制限して拘束できるので、ペットがその可動範囲を越えて動き回ることなく、運転の妨げとならない。またペットが車外へ飛びだすことを防止でき、さらに、急ブレーキ時や事故の場合にペットが投げ出されることもなく安全にペットを車両に乗せることが可能である。また、請求項2の発明によれば、ペットをペット用ケースに入れたまま拘束できるので、ペットが暴れてシートを傷めることが防止できる。また、特にペットが小動物である場合はペット用ケースごと運ぶことが可能で便利である。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例1のペット拘束用シートベルトを用いてペットを拘束した状態を示す斜視図である。

【図2】(A)は拘束バンド11の構造を示す斜視図である。(B)はタングプレートおよび連結ロープの構造を示す断面図である。(C)はタングプレートをシートアンカに装着した状態の断面図である。

【図3】(A)はペット拘束手段が首輪である場合のペット拘束用シートベルトの全体構成を示す斜視図である。(B)はタングプレートに連結ロープを褶曲的に取付けた場合の状態を示す斜視図である。(C)は連結手段がウェビングである場合のペット拘束用シートベルトの全体構成を示す斜視図である。

【図4】実施例2のペット拘束用シートベルトの全体構成を示す斜視図である。

【符号の説明】

1、1A ペット拘束用シートベルト

11 拘束バンド

12 取付金具

13 取付ベルト

15 ペット用ケース

21 タングプレート

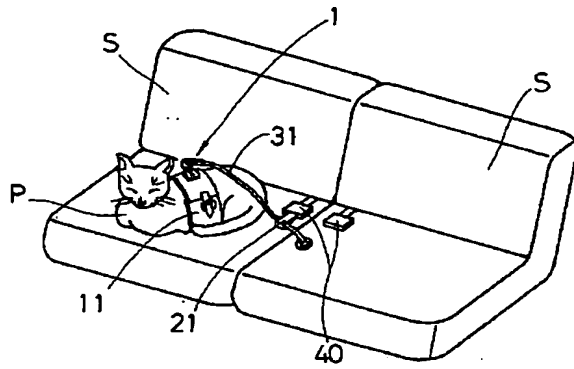
22 タング

31 連結ロープ

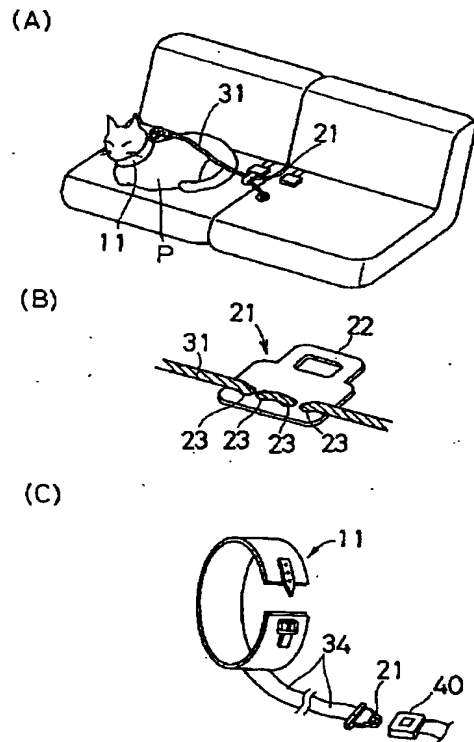
40 シートアンカ

P ペット

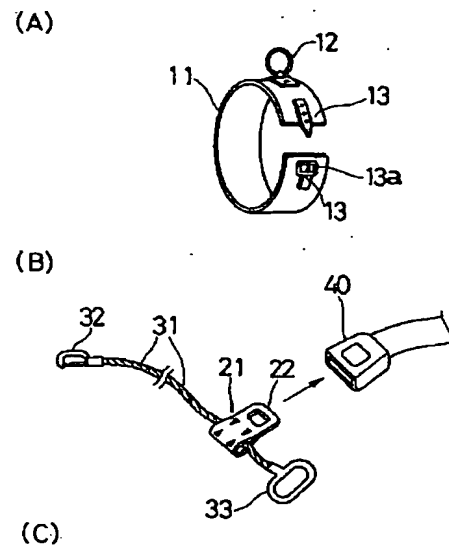
【図1】



【図3】



【図2】



【図4】

